

## 平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	教職志望学生の社会的能力育成プログラム開発		
プロジェクト期間	平成24～25年度		
申請代表者 (所属講座等)	高松 勝也 (教職実践講座)	共同研究者 (所属講座等)	小泉 令三 (教職実践講座) 山田 洋平 (教育支援課)
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究は、教職を志望する学生（以下、教職志望学生）が、就職後に学校で児童生徒、保護者、同僚教員等との人間関係を円滑にもてるように、コミュニケーション能力等を含めた社会的能力を身につけるための学習プログラムを開発し、在学中の学習効果を検討することを目的とした。プログラムの開発にあたって、児童生徒用のSEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 Abilities at the School : 学校での8つの能力を育成するための社会性と情動の学習)プログラム (小泉, 2011) を参考にした。</p> <p>平成25年度の研究内容は、(1)平成24年度に開発したSEL-8T (trial)学習プログラム (Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Teachers (trial)) の改良版の作成、および(2)改良版SEL-8T (trial)学習プログラムの実施および効果検証であった。(1)については、平成25年6月～9月に、平成24年度に実施したSEL-8T (trial)学習プログラムの効果および受講者のアンケートを参考に、改良版SEL-8T (trial)学習プログラムを作成した。主な改善点は、実施回数を5回から6回に増やし、他者の考えを理解するために重要な「話の聞き方」を実施テーマに加えたことである。(2)については、平成25年10月中旬から11月上旬にかけて、受講を希望する教職大学院在籍の大学院生6名を対象に、全6回の改良版SEL-8T (trial)学習プログラムを実施し、効果を検討した。その結果、本学習プログラムで学習した内容に対する指導の自信(効力感)についての学習効果を確認した。</p>		
研究成果の概要	<p>学習プログラムを受講した大学院生6名に対して、全6回の改良版SEL-8T (trial)学習プログラムを実施した。1回の学習ユニットは90分であり、前半の40～50分では教師に求められる社会的能力の育成、そして後半の40～50分では学習内容実践化の意識向上をねらいとする学習が行われた。</p> <p>本学習プログラムの実践効果検証においては、全4回の質問紙調査を実施した。調査は、①教師の社会的能力尺度 (山下・小泉, 2012)、②学習内容実践化の意識調査 (学習内容の指導に対する自信) であった。</p> <p>教員の社会的能力尺度と学習内容実践化の意識調査の下位尺度ごとに分析(4回の時期による1要因分散分析)を行った結果、改良版SEL-8T (trial)学習プログラムで扱った6つの実施テーマのうち、4つのテーマにおいてその学習内容の指導に対する自信(効力感)が高まっていた。学習プログラムを受講した大学院生は、授業を通して、各テーマについて、どのように指導したらいいのかを理解し、一定程度の自信が得られたと考えられる。</p> <p>本研究で明らかになった課題として、①実施回数の検討、②家庭学習の設定および教育実習等との関連づけによる学習効果の定着や般化の工夫をあげることができる。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [ <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。]			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 (申請済) <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 ( <input checked="" type="checkbox"/> 国内 ・ 国外 ) : 日本教育心理学会 <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input checked="" type="checkbox"/> その他 : 本学紀要, 教職大学院年報